

令和3年度 区域まちづくり事業 効果検証シート

		実施主体				
チャレンジアート事業		東区役所企画総務課				
事業目的	事業効果	成果指標 (R1までと実施内容等が異なる)	成 果			
			R1(参考)	R2	R3	
アート創作での取り組みを通して、子どもとその保護者の絆を深めるふれあいの機会を提供するとともに、区民の芸術・文化活動に対する関心を深め、区域の芸術文化活動のさらなる活性化に寄与することを目的とする。 また、作成した作品を東区役所で展示し、広く区民に芸術・文化とふれあう機会を提供する。	・アート創作を通じて、子どもとその保護者のふれあいや絆が深まる ・身近で活動する芸術家と協働することで、芸術・文化に対する関心が高まる ・芸術、文化と身近にふれあえる機会を提供することで、区民の芸術・文化に対する関心が深まる	アンケートによる満足度調査(良かったの割合)	親子:93% 区民:81%	95%	前半:98% 後半:100%	
		応募人数 (当初予定人数割合)	親子:34組 区民:36人	117人 (195%)	前半:112人(93%) 後半:151人(125%)	
		応募シート・チラシの配付枚数 ホームページ閲覧回数	—	—	応募シート・チラシ 2,368枚 ホームページ 991件	
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性			
○ 芸術・文化にふれあえる機会や親子の絆を深める機会を創出し、区民の芸術・文化に対する関心の向上や子どもたちの豊かな感性の醸成など、地域全体の芸術・文化の振興を図る事業であるため、行政が実施すべき事業である。	○ 区域で活動する芸術家たちと協働で事業を企画・実施している。	○ チャレンジアートでは、作品作りを通じて、親子のふれあいの機会を創出している。また、区民が応募した作品(ぬり絵)を東区を中心に活動しているアーティスト達が灯笼に創作して展示するため、誰でも参加しやすい形である。さらに、未だコロナ禍が続く中の「厄よけ」のテーマが区民の思いを繋げ、創作意欲の醸成につながり、幅広い年齢層へ広くPRできた。	○	ぬり絵を区ホームページからダウンロードできるようにしたり、応募も電子申請システムを活用し、コロナ禍において自宅内でも完結できるような参加ハードルが低いイベントとすることで、チャレンジアートをPRできた。また、夏と冬の2回開催、さらに後半は区役所健康ふれあいひろば(屋外)でイルミネーションと同時開催で実施することで、芸術・文化に身近に触れあえる機会を創出することで事業をPRできた。		
⑤自立発展性	総合評価					
△ 地域全体で芸術に取り組む意識を醸成するために、現段階では行政主導で実施すべき事業である。	○ 昨年度に引き続き、コロナ禍前から実施内容および実施方法を変更した形であるが、区民の方から応募がまだ間に合うか、かざぐるまアートの作り方を教えて欲しい(展示後)など複数の問い合わせがあったり、募集人数も途中追加して昨年度以上に非常に人気かつ注目度のある事業となった。また、参加者のアンケート結果でも非常に満足度が高い結果である。参加内訳も未成年が前半は51%、後半は42%であり、その大半が親子や祖父母と孫など、家族での参加である。また、幅広い年齢層の方が参加され、気軽に参加できる身近なイベントであった事が分かる。次年度以降も、工夫・改善を加えながら継続して実施していきたい。					
今後の方向性(課題、改善提案等)						
拡充 継続 見直し 廃止	チャレンジアートはかなり満足度が高い評価であった。また、より多くの方や家族に参加いただけるように、企画内容および募集の方法等について工夫したい。次年度以降も、継続・発展的に事業が展開できるよう、アートひがし実行委員会としっかり連携しながら、区民の皆さんが気軽に芸術・文化にふれあえる場となるよう工夫・改善に取り組んでいきたい。					